

令和5年度千葉県学校体育研究大会

1 大会主題 『主体的・対話的で深い学びの実現に向けた体育学習の充実』

2 期 日 令和5年11月10日（金）

3 会 場

(1) 全体会 森のホール21

(2) 分科会 小学校 松戸市立八ヶ崎小学校

中学校 松戸市立常盤平中学校

高等学校 松戸市立松戸高等学校

4 内 容

(1) 講演

演 題 「主体的・対話的で深い学びとその評価～Well-beingな未来を見据えて～」

講 師 横浜国立大学 教育学部 学校教員養成課程

教授 梅澤 秋久 先生

(2) 公開授業

分科会	指 導 者	展 開	単 元 名
小学校	木村 都志光 教諭	1年1組	走・跳の運動遊び「走の運動遊び」
	川崎 由佳 教諭	3年1組	走・跳の運動「小型ハードル走」
	菅原 風之介 教諭	6年1組	陸上運動「ハードル走」
中学校	石原 健吾 教諭	2年1組	球技（ネット型）「バレーボール」
	野口 千佳子 教諭	2年5組	陸上競技「長距離走」
	吉村 真由美 教諭	1年5組	
高等学校	瀬和 真一郎 教諭	1年1・7組	球技（ネット型）「バレーボール」
	朝隈 智雄 教諭		球技（ゴール型）「ハンドボール」

(3) 研究発表及び研究協議

分科会	研究主題	発表者	司会者	助言者
小学校	生き生きとした体育学習の展開はどのようにしたらよいか －主体的・協働的に運動に親しむ児童の育成－	松戸市立 八ヶ崎小学校 教諭 中牧 正樹	松戸市立 相模台小学校 教諭 金子 ちあり	北総教育事務所 指導主事 加瀬 友紀仁
中学校	保健体育の授業を通じた、ウェルビーイングに繋がるコンピテンシーの育成に向けて ～AARサイクルを用いた個別最適な学びの実践を通して～	松戸市立 常盤平中学校 教諭 平田 義人	松戸市立 第一中学校 教諭 千葉 智弘	北総教育事務所 指導主事 菊池 崇志
高等学校	男女共習における主体的・対話的で深い学びを促す「AARサイクル」「ゲーム中心の指導アプローチ」の活用と支援の研究	松戸市立 松戸高等学校 教諭 瀬和 真一郎	日本体育大学 柏高等学校 教諭 片野 慶輝	千葉県立 八千代高等学校 教頭 柳橋 宏昭

(4) 参加者

- 県内小・中・高等学校・特別支援学校等教員
- 県教育庁教育事務所学校体育担当指導主事
- 市町村教育委員会学校体育担当指導者 等

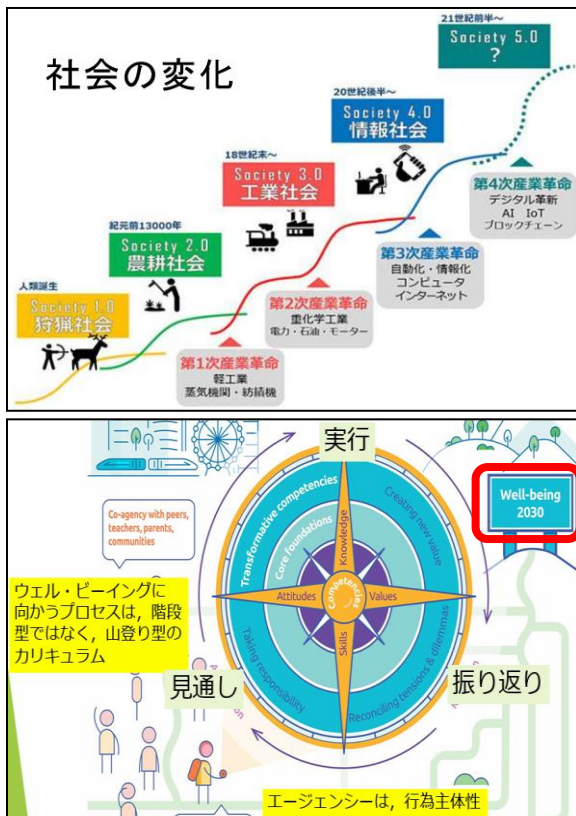
5 講 演

演題 「主体的・対話的で深い学びとその評価 ～Well-being な未来を見据えて～」

講師 横浜国立大学 教育学部 教授 梅澤 秋久 先生

(1) 社会変化からみる教育の変革

日本の教育は、世界に大きく後れを取っているという問題意識を持つ必要がある。



- ・ Society3.0 では、日本型教育（同一年齢の子供に、同一の学習をさせるベルトコンベアー式のカリキュラム）は世界で注目されていた。
- ・ しかし、残念ながら、Society4.0 → 5.0 への移行で、日本は大きく後れを取ってしまった。
- ・ これからの社会では、**一人一人が当事者性を発揮して、周囲と協力して山を登るようなカリキュラムが大切**だと言われている。

- ・ OECD ラーニングコンパスより
- ・ 目的地は「Well-being」

<Well-being とは？>

- ・ 「幸福」や「心身ともに満たされた状態」
- ・ 身体的・精神的・社会的によい状態にある

(2) 第4期教育振興基本計画におけるウェル・ビーイングの考え方

第4期教育振興基本計画のコンセプト

2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成

- ・ 将来の予測が困難な時代において、未来に向けて**自らが社会の創り手**となり、課題解決などを通じて、**持続可能な社会**を維持・発展させていく
- ・ **社会課題の解決**を、経済成長と結び付けて**イノベーション**につなげる取組や、一人一人の**生産性向上**による、**活力ある社会の実現**に向けて「**人への投資**」が必要
- ・ **Society5.0**で活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

日本社会に根差したウェルビーイング(※)の向上

- ・ **多様な個人それぞれの幸せや生きがい**を感じるとともに、**地域や社会が幸せや豊かさ**を感じられるものとなるための教育の在り方
- ・ 幸福感、**学校や地域でのつながり**、利他性、協働性、**自己肯定感**、自己実現等が含まれ、協動的要素と獲得的要素を調和的・一体的に育む
- ・ **日本発の調和と協調 (Balance and Harmony)** に基づくウェルビーイングを発信

※身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

文科省、2023

なぜWell-being (幸せ) に着目するのか?

Well-being(幸せ)な人は・・・

- ▶ 創造性が高く
- ▶ 生産性が高く
- ▶ 欠勤率・離職率が低く
- ▶ 学業成績がよく
- ▶ 利他的で親切で思いやりがあり
- ▶ 主体的・自主的でやりがいがあり

- ・ 成長意欲が高く
- ・ 自己肯定感が高く
- ・ チャレンジ精神が高く
- ・ 健康・長寿
- ・ 感謝をよくする

などなど

(3) これからの体育…キーワードは「共生」



・体育・保健体育は、他教科に先駆けて「**共生**」というキーワードを取り入れた。

<共生 (Inclusive) >

性別、障害の有無、(年齢差)、その他全ての格差を包摂すること。

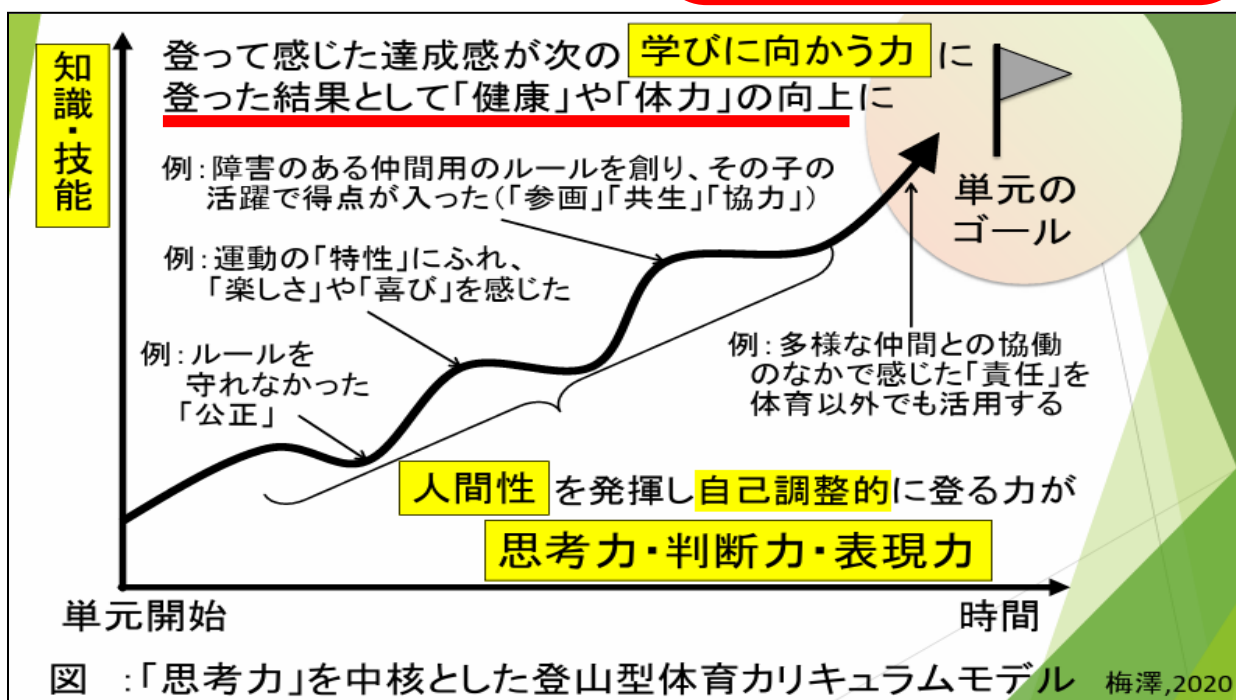
↓
もちろん、体力差・技能差を含む

<これまでの体育…>

- ・個人が技能を身に付けることを重視
- ・階段型体育
- ・「私だけ」の瞬間的幸福

<これからの体育…>

- ・多様な他者と共に目標に向かうことを重視
- ・登山型体育←主体的に学習に取り組む態度を基盤に、**試行錯誤しながら目標に向かう**
- ・「社会的」にウェル・ビーイングを向上



<児童生徒が主体的に学習する(山を登る)ために>

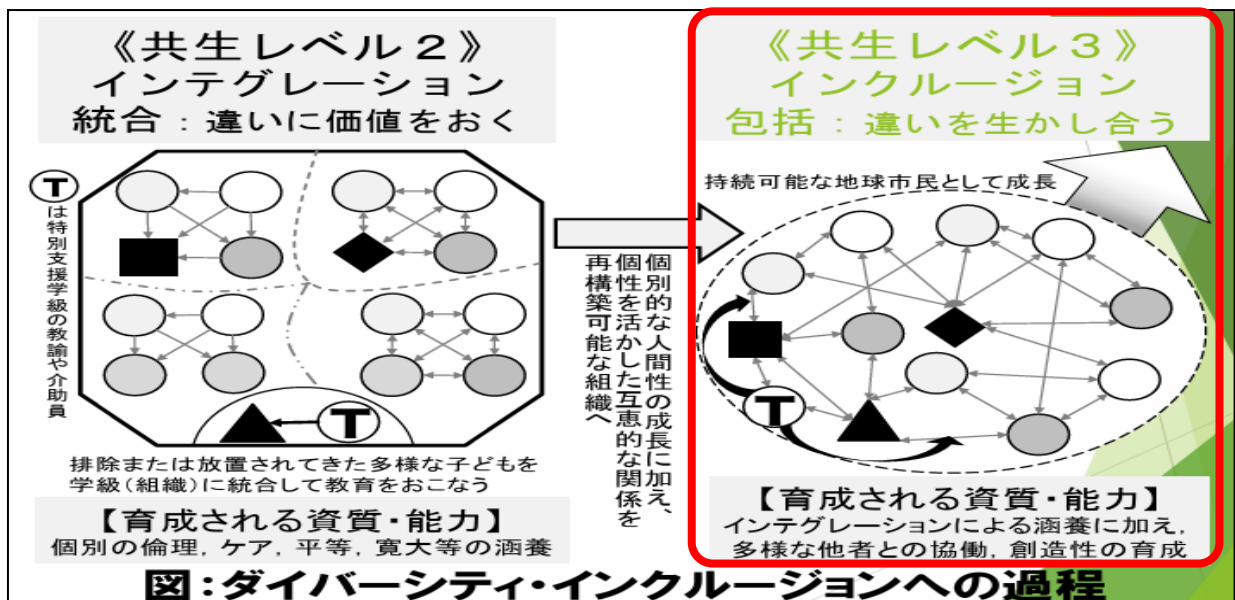
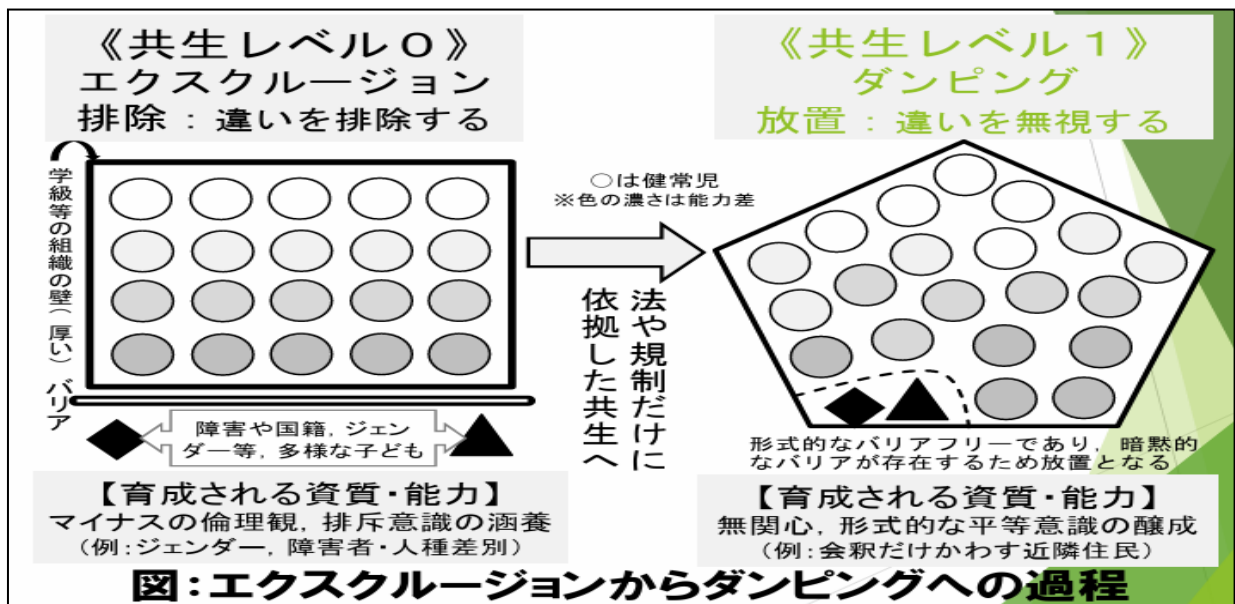
○自己決定(試行錯誤)を保証すること

- ・内発的動機付け(楽しい・興味がある・好き)が高まる

○安心できる環境(モノ・言語)を整えること

- ・苦手な子供も安心できる、使いたくなる道具を工夫する
- ・教師の言葉掛けにより、誰一人として排除しない雰囲気を作る

(4) 全ての子が「共生」する体育とは？



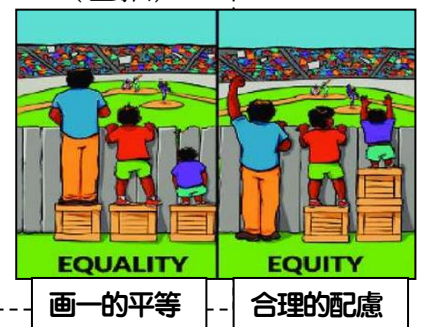
<共生学習を展開するために>

OD&Eではなく、DE&I

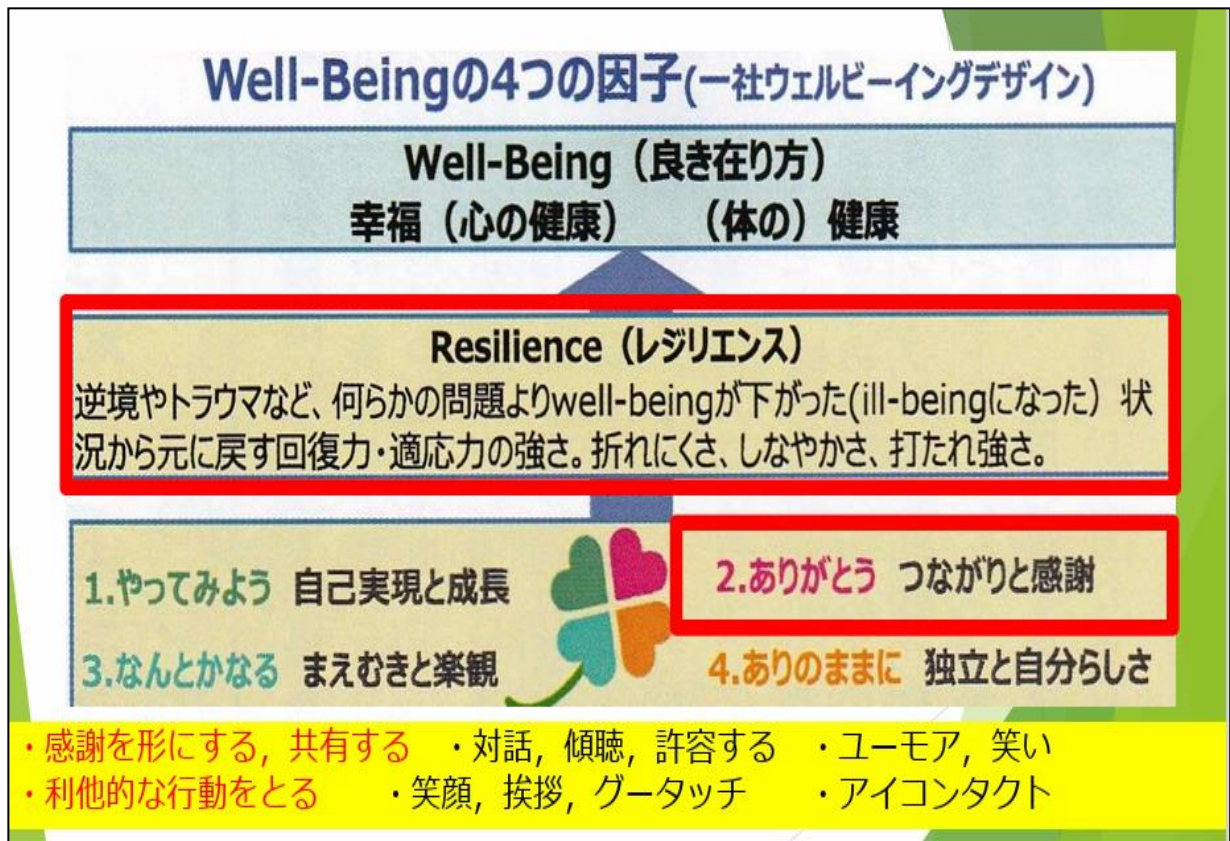
- ・ Diversity (多様性) Equity (合理的配慮) & Inclusion (包括)

○アダプテーション

- ・ 個々の状況等に応じてルールを考え、作り出す
(例)・得点方法の工夫 (リングに当たったら○点、入ったら○点)
・ エリアの制限 (○秒間プレッシャーを受けないエリア)
・ 数的優位 (フリーマンやオフenseマンの配置)



(5) まとめ



まとめ

- ▶ 時代の変化により, 「創造性」(思考力・判断力・表現力)の育成が教育の中核になっている
- ▶ 教育の最終目的は, Well-beingである
- ▶ 体育は, 身体的・精神的・社会的によい状態(Well-being)に繋がる教科である
- ▶ 良質の体育は, 共生(インクルーシブ)でなければならない
- ▶ 全ての子どもが共に生かし合うために, アダプテーションゲーム(ルール創造)の活用が望まれる